

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当） 乗用車販売店（従業員）	・競合店の影響が弱くなる。 ・軽自動車業界は、これから新型車が各社出そうなので普段よりは来客もあり、売上も上昇する。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街が改装中のため街全体がガタガタしている。また消費者の買い控え、値上がりによる来街者数の減少などが影響している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・浮揚する理由が思い当たらない。
		百貨店（営業担当）	・景気の悪化はまだまだ続く。値上がりで先が見えないなか、家計が心配であり、消費の部分をかなり見合わずような状況が続く。
		スーパー（店長）	・ガソリンの値上げの影響と、それによるその他の商品の値上がり傾向が改善されないので、なかなか景気が上向いてくることはない。
		スーパー（企画担当）	・ガソリン料金の変動が落ち着いたように感じられる。原材料価格の高騰に対するメーカー・小売の対応も本格化し、価格転嫁は落ち着きそうである。
		家電量販店（営業担当）	・1点買いの客が増え、それ以上の勧めが難しくなっている。買い控えも進んでおり、単価がなかなか上げられない。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代が少し下がる傾向にあるが、以前の価格には戻っていない。今後も買い控えとサイズダウンの台替が続くと予想され、自動車業界が厳しいことには変わりはない。
		乗用車販売店（営業担当）	・8月末に新型軽自動車を発売した。今後、他社からも相次いでモデルチェンジによる新型車が出るが、市場が上向きに転じることは期待できない。
		観光型旅館（経営者）	・3か月先までの予約状況を見ても、あまり良くなることはないが悪くもならないという状況であり、今の状態が続く。
		旅行代理店（従業員）	・何もかもが値上がりしてきており、個人にとって景気の閉塞感は強い。個人の財布のひもは固くなっており、旅行に行く気分になっていない。秋の行楽シーズンになるがあまり期待できない。
		タクシー運転手	・給料下落、ボーナスカットという客の声が多い。先月から高知市内は、旅客運送事業が特別指定地域となって、増車ができなくなり新規参入も不可となっている。経済は落ち込む。
		通信会社（管理担当）	・市場の飽和による新規需要の減少傾向及び端末サイクルの延伸化に伴う取替需要の減少傾向が継続する。
		通信会社（総務担当）	・CATV業界はオリンピック特需もなく、地上デジタル放送移行にはまだ時間があることから、厳しい状況が当面続く。
	ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先は、来場者も増えてくる良いシーズンであるが、今回は弱い印象である。予約もそのようになっており、平均すると今月とあまり変化がない。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の通行量調査6月版が出たが、通行量の減少に歯止めが掛からない状態である。商店街近隣の大規模商業集積の開発計画が頓挫した報道もあり、商店街の地盤沈下が止まらない状況が続いている。
		商店街（代表者）	・本当に必要な商品、しかも良質で低価格な商品への志向が強い。可処分所得の減少、少子高齢化、車社会の限界、減速経済などの状況変化により、今後本格的なオ・バ・ストア現象の自然淘汰が始まる。
		百貨店（営業担当）	・クリアランスも当用買いが例年になく目立った。来客傾向に変化もなく、ラグジュアリー商品群も総じて低調、またファッション性の強い商品ほど売りにくくなる。
		百貨店（売場担当）	・財布のひもが固くなってきている状況に加え、商品の値上がり傾向が続く、ますます消費に対する警戒感が強まっていく。
スーパー（店長）		・今年に入って「どこの店のどの商品が安い」といった価格についての話を良く聞くようになった。競合店も低価格を打ち出した販促を強化してきている。	
スーパー（店長）		・ここに来て、食料価格の高騰が、買上点数、販売点数に影響し始めたので、先行きは厳しいと見ている。	

		衣料品専門店（経営者）	・消費マインドは相当落ち込んでいるように感じる。客が商品を選ぶにも、相当慎重になっており、色々と考えているのではないかと思われる。ガソリン価格の下落がプラスになることを期待するが、先行きは厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・全体の消費が停滞するなか、7月以降市内および県内の競合商圈に相次いで大型SCがオープンもしくはオープン予定であり、既存商業施設の店舗の売上が2割近く減少している。客の争奪戦がますます激しくなると予想され、売上の落ち込みが避けられない。
		乗用車販売店（管理担当）	・食品、生活必需品の物価上昇の影響で高額商品へ資金が回ってこないと思われる。
		一般レストラン（経営者）	・月末になってホテル、回転寿司チェーンの倒産、閉店がうわさされており、だんだん厳しくなる。
		一般レストラン（経営者）	・価格の上昇は想定より小幅に抑えられるとみられるが、引き続き買い控えは続く。また大手新規出店により更に客の分散が大きくなる。
		都市型ホテル（経営者）	・現在の予約状況が前年と比べてかなり悪い。件数は減っていないが、人数・単価が落ち込んできており、悪い方へ向いている。
		通信会社（支店長）	・原油価格の高騰は、今後も継続される様子を見せていることなどから、一転して変わるものではないと考える。
		競艇場（職員）	・昨今の物価上昇の影響で、レジャーに対する支出を抑える傾向は依然として続く。
	悪くなる	商店街（代表者）	・スタグフレーション、客の大型郊外店への流出等、前月までの悪い材料が続いており、好転する材料がない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・原料高に加え、秋から小麦等の値段が上昇すると聞いている。値上げした物の売上が、かなり落ち込んでいる。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・売上の大半を占める取引先の料飲店の売上が上昇する見込みが全くない。
		スーパー（店長）	・ガソリン高で、遠くから車で来店する客が減って、今後も食料品の値上がりは続き、景気が悪い傾向はますますひどくなる。
		スーパー（財務担当）	・経済環境が悪化する（インフレ、景気後退、株価、地価、輸出、給与）。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高の影響で買い控えが起きている。
		家電量販店（店長）	・猛暑によりエアコン・冷蔵庫をかなり前倒し販売している。そのために年末のエアコン・冷蔵庫の需要が非常に不安定になるとと思われる。オリンピックが終了したので、AV機器の需要が落ち込んでくる。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高値安定が続けば、景気は良くならない。
		住関連専門店（経営者）	・最近、消費者の収入が増えない状態で物価が上昇しているため、耐久消費財の販売については、客が節約気分になる。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・物価上昇により、外食への支出は減少傾向がもっと顕著になる。
		タクシー運転手	・タクシーに乗る客が減っており、今後も回復するような良い材料がない。ますます飲みに出なくなり、涼しくなって歩いて帰る人も多くなる。これ以上良くなることもなく、もっと悪くなる。
		観光名所（職員）	・これといった景気対策が打たれていない。
		美容室（経営者）	・景気回復の兆しが見られない状況下で、停滞が続きそうである。
		設計事務所（所長）	・分譲マンションの販売戸数が減りそうである。
		設計事務所（職員）	・数か月先、さらに年間を通じて複数年にわたり、一段と悪くなる。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（従業員）	・当社は、冬場の需要が多いということもあり、今月よりも良くなる。
		通信業（営業担当）	・原油価格の下落、ガソリン販売価格の高騰もピークを過ぎ、値下げ傾向が見えて来たことに加え、秋に向け外出の機会も増え、その影響で個人消費も上向き、回復傾向になる。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・消費者は物価高による儉約志向になっており、新しい商品で従来の価格と同等のものを作っていかねば難しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・個人消費低迷による価格競争が厳しく、受注減少が継続する。
		建設業（経営者）	・2～3か月では、現状が好転する材料が全くない。
		輸送業（経営者）	・旅行業であるが、客は価格に非常にシビアである。一般的に消費者の買い控えがまだまだ続いている。

		通信業（部長）	・前年同期に比べて、2割近い販売数量の減少が見られる。この傾向は当分続くと考えられる。更に販売数量の落ち込む可能性はあるが、過去の需要変動から節目となる一定期間が経過する時期を迎えるため、減少要素と増加要素が相殺され現状維持の状態が続くと考えている。
		広告代理店（経営者）	・従来の得意先は販売不振・経費高騰で広告費削減の話が多いが、大手量販店のオープンに伴う販促広告の受注が見込めるため、全体として変わらない見込みである。
やや悪くなる		繊維工業（経営者）	・十分な価格転嫁は現在の市況から困難である。また徐々に消費マインドが冷えつつあり、今後は売上増も多くは望めない。
		木材木製品製造業（経営者）	・相変わらず物価の上昇が、年末ないしは来春まで続くと思う。マンション関係が相当悪いなかで、銀行関係の金融に対する引き締めが更に強くなっている。当分良くならないと思う。
		鉄鋼業（総務・人事統括）	・今までは原油価格が先導する形で原材料も上昇してきたが、原油価格に頭打ち感が出てきており、原材料にもひっ迫感を感じられなくなったことから、製品価格も調整局面に入ることが考えられる。製造業にとっては、急激な値下げ圧力が掛かってくるのが予想される。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・販売環境の悪化に伴い、商談の引き伸ばしやキャンセルが出てきている。仕事量も減少傾向であり、今後のユーザーの経営内容の悪化が懸念される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・設備業であるが、近くの製紙会社、電子会社等の設備が終わった。その後の仕事の見通しは非常に厳しい。特に電子材料あたりは締めにかかったのではないかと感じる。
		輸送業（役員）	・景気の現状が今後も深刻化すると予想され、特に運輸業界においては、ますます燃油費の負担増が危惧される。
		輸送業（支店長）	・やや原油価格の高騰に歯止めが掛かりそうな見方もあるが、燃料等コストの転嫁に進展はあるものの、原油価格の高止まりで、コスト吸収に追いつかない。荷主企業も同様の傾向と思われる。
		不動産業（経営者）	・石油の高騰、その他生活用品の値上げにより、不動産に対する消費者のマインドが非常に冷えている。金融機関の住宅ローン、事業用関連の融資に関しても厳しくなってきたことから、先行きは非常に厳しい状況になる。
		広告代理店（経営者）	・原油価格が久しぶりに下がったとのことだが、まだまだ資材・補材価格に反映されるまでには時間が掛かる。
悪くなる		建設業（総務担当）	・税理士事務所からの情報であるが、中小企業に対する銀行の融資姿勢が厳しくなっており、今後、貸し渋り、貸しはがしが増えるのではないかと懸念している。
		公認会計士	・関与先の社長の話を聞くと、非常に資金繰りが悪くなっており、会計事務所への決算料の支払いも遅れている。将来に対して非常に不安を持っている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・2010年卒対象の新卒採用予算時期になるのでベースは良くなるが、転職やパートアルバイト市場は引き続き低迷する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・業績が悪く経費削減の傾向が強くなっている。各企業とも更なる業務効率を図り、人員調整を行っていくと思われる。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・ここ数か月間の求人数と前年の求人数を比較した場合、今年度の求人数が少ない。
		職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が高止まりで推移し、月間有効求人数、就職数共に前年同月比減少傾向で推移している。
		職業安定所（職員）	・新規求人の全数を支えていたパートや臨時の求人まで減少が始まっている。
		職業安定所（職員）	・公共事業減少で、建設業の倒産・廃業が相次いでいる。また小規模の卸・小売業者の廃業も増加中である。原油・材料の高騰を考えると、不安要素のほうが大きく、今後も求人意欲は、引き続き抑制傾向だと思われる。
		民間職業紹介機関（所長）	・原材料費、燃料費、諸物価の値上がり、企業経営に大きな負担増となっており、個人事業主の将来の展望は全くなっている。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・各種値上がりラッシュのため将来の展望が見えず生活防衛が主となり、長期に渡って支払う家や車、高級品を購入する消費者マインドではない。